

市民学コース 6 富士見の歴史

定員 60 人

第3回テーマ 鎌倉

室町時代の歴史を訪ねる 坂東の庶民の暮らし

講師 宮瀧 交二教授

日時 6月22日(土) 午前10時から12時
会場 鶴瀬公民館 第3集会室
受講者数 40名

はじめに

- ・平安時代後期以降 埼玉県西部(武蔵国入間郡)から東京北部(武蔵国多摩郡(現東村山市域))を本拠とした村山党の影響下にあった
村山党とは私営田領主層(富裕層)が結集し、武蔵七党の一つに成長
- ・村山党の中心の金子氏の一族が、鎌倉時代に難波田の地域を収め、難波田氏を名乗る。難波田氏の拠点として難波田城を築城
- ・難波田氏は天文15(1546)年の川越夜戦で北条氏康と戦い、扇谷上杉氏の重臣、難波田善銀(よしかね)が討死し、これが基で没落?
- ・難波田城における難波田氏の暮らしについては、発掘調査の成果(資料館展示)を参照、発掘で多くの瀬戸物を発見、庶民の暮らしとは違う
- ・本日のテーマは、**難波田氏の支配地域の村で、人々の暮らし**
私たちの10代前の先祖を数えると1024人、1894年に日清・日露戦争、関東大震災、第2次世界大戦を経て、先祖が命をつないでいき、自分たちがいる。庶民の歴史を知ることが大事



掘り出された中世の村

- 富士見市周辺では発掘調査がない
- 荘園絵図（関東地方の中世村落を描いた地図）は、横浜市金沢区の称名寺に伝わった、南北朝初期の「武蔵国鶴美寺尾郷絵」に残るのみ
県立金沢文庫所蔵の1枚のみ
- 「鎌倉街道」上道・苦林宿（埼玉県毛呂山町堂山下遺跡）の発掘調査について
「鎌倉街道」とは、鎌倉幕府の命により上道・中道・下道とそこへ至る枝道、脇道が築かれる。岩手、愛知など日本中にある。モンゴルに攻められた元寇の折は日本中から武士が戦いに加わった



毛呂山町堂山下遺跡の発掘調査から

航空写真からみた集落全体、発掘により街道の両側に家が立ち並び、遠隔地から運ばれた陶磁器、庶民の家の復原を見る

- 復元された「鎌倉街道」の宿の景観
- 毛呂山町の流鏝馬の奉納
- 崇徳寺に3メートルの高さ大日如来の板碑

I. 「鎌倉街道」の研究手法

- 金石文…鰐口の銘文など
- 歴史地理学 現地を歩く…地蔵・神社・寺院
伝承地の丁寧な踏査が前提、区画整理などで地名が消失の可能性がある
- 考古学的アプローチ
「鎌倉街道」及びその周辺地域の発掘調査による検討、道路状遺構が検出される場合がある 間道、枝道

II. 「鎌倉街道」の歴史的空間を復原する

- ① 毛呂山町堂山下遺跡
崇徳寺跡（阿弥陀堂）とされる仏堂（辻堂）が存在
隣接地には「宿浦」「市場」（定期市）など小字もある
- ② 寄居町赤浜 荒川（赤浜の渡し）と鎌倉街道が交差している
三嶋神社（水運を祀る）…三嶋神社の鰐口の碑文から判明
「武蔵国男衾郡塚田宿三嶋社宮鰐口」
隣接地に「令市」という小字が存在、寺院（堂）に鎌倉の板碑
- ③ 浅倉一乗谷遺跡の庶民の家の復原写真の紹介
単独、軒を並べて長屋式の家など
焼け跡から出た竹組みを残す壁の一边など

今回はパワーポイントで、ふんだんに写真を使用しての講義内容に「鎌倉街道」の成り立ちや発掘された事例より街道沿いの庶民の暮らしを分かりやすく紹介していただいた。

中世の富士見市域の庶民について明確に知ることはできないが、街道沿いに開けていただろうと推測される。

